

奥裾花のユキツバキ後日談

和田 清*

自然の分布範囲から外れたユキツバキが、裾花川上流(戸隠山の西方、裏側)、奥裾花自然園のブナ原生林に植えられている情報を、本誌20号(1987)の植物ニュース100に記録しておいた。その後、生長も盛んで開花し、一部は結実して憂慮されたが、平成24年にほとんど抜根、処理されたので報告しておく。

自然園内には砂防用の未舗装の車道が通っている。当時、資材置き場にしていたのかブナ等がない狭い空き地が、「こうみ平」(クサソテツが多い湿地)への観察歩道入口にある。このブナ林縁部に植えた数本のユキツバキは、高さ2mにもなり、枝張りもよく生長し、植樹の翌年から花を付けたという。これらは明らかに一重のユキツバキで、雪解け直後、大勢が訪れるミズバショウの開花期と一致し、結実もするようになった。その後、花期が少しずつ赤い八重のツバキも花を付けるようになり、ますます異状なことだと困惑していた。

一方、自然園の最深部にある吉池周辺の観察路沿いにも植えられていたが、数m位の間隔で、地面に伏すような樹形だったためか、さほど人目には付かなかったようである。しかし、園内を調査した植物リストには、野生種として記録されたこともある。ところが、最近になって、白い八重の花をぼつぼつと付けるようになった。もはや、このまま放置できないので処分するようお願いをしてきたところ、平成24(2012)年度に、歩道を通れる小形重機によって抜根作業が行われた。長野市役所鬼無里支所の北澤正則係長と裾花庭苑主の有沢二三明樹木医お二人の熱意によるもので感謝したい。

今回は3,40本処理できたというが、まだ、完全な駆除とはいかないようで、今後も見つかりしだい処分することになっている。とくに、実生苗も発芽し始めているので、多くの協力を得て監視する必要がある。

* 和田 清 〒381-0041 長野県長野市徳間916-6